

# アートで繋ぐ 銀の馬車が できるのかと?

姫路城があつて世界中から人がやってくるけど、銀の馬車道へは?

でも、銀の馬車道沿線には県立歴史博物館に姫路市立美術館や文学館にあずきミュージアムや川のほとりの美術館。日本玩具博物館もあれば、福崎町立柳田國男・松岡家記念館に河童や妖怪もあり。市川町には、脚本家、橋本忍記念館もあり、朝来市には生野銀山やあさご芸術の森美術館もあつて、但陽信用金庫さんの但陽美術館や支店にはプロンズ像があり、彫刻家、牛尾啓三さんの彫刻も沿線には沢山あるのだから、それを訪ね歩く仕掛けがあればきっと「銀の馬車道・鉱石の道文化芸術祭」ができるよなつて思つたんです。



私は3年間ALTとして姫路に住んでいたとき、姫路から北へよくサイクリングをしました。そのときに、北に行けば行くほど変わる景色、静かで平和的な播但線沿いの風景に魅了されました。

今回のアートスタンドは、巨大なフォトフレームを表現しています。黄色のフレームは目を引きやすく、そしてサイクリストたちが自分のロードバイクなどを乗せて、写真を撮れるような工夫もしており、フォトスポットの役割も果たしています。

なぜフォトフレームにしたかという点、単純に物理的に建つてるアートを楽しむより、四季折々のこの播但線沿いの景色・日常をフ

できれば、次の時代を引っ張っていく若い人たちに世界に向けて情報発信してもらえれば、そして自由にどんな所へも動きまわれるサイクリスト達にも情報発信してもらえれば、きつと銀の馬車道も瀬戸内芸術祭と繋がりがメジャー入りできるかも、なんて?

沿線に暮らす者には当たり前前の風景が、「一枚の「額」となつて世界に発信されていく、きつと何かが起こり始めるのでは...?と思うのです。

迷惑だと叱られるかもしれませんが、でも、その場所の価値は訪れる人たちによつて熟成されていくに違いないと思つています。

銀の馬車道沿線に暮らす誇りと価値を高めることができるのであればと願うのです。

この様なアートが馬車道沿線に点在して繋がり、情報発信されていくことが地域の元気になるばと願つて

アートフレームで切り取つて景色をアートとして、楽しんでもらいたかつたからです。このアートスタンドは、サイクリストや訪れる人たちに楽しんでもらうだけでなく、地元の皆さんにも、このアートスタンドを通して、この播但線沿いの素晴らしい景色を誇りに思つてもらい、世界に発信していきたいです。またこれからこのようなアートスタンドを播但線沿いにつくり、訪れる人が、アートスタンドを通して楽しめる工夫ができれば、より素晴らしい場所になるでしょう。

※アートスタンドのあるこの場所が、訪れる人たちにとつても、地元の人たちにとつても魅力のある場所となるよう、マナーやルールを守り、あたたかな人の交流が生まれることを願います。また、播但線沿いの素晴らしい景色の発信を続けていきたいと思います。

〈朝来市地域おこし協力隊・Asago Cycling ケンネル〉

います。繋がりを活かす仕組みも大切で、鉱石の道との繋がりを考えると、兵庫を貫く縦軸で人が動くことになり、その繋がりがこそがこの地域を変える力になるのではと思つています。

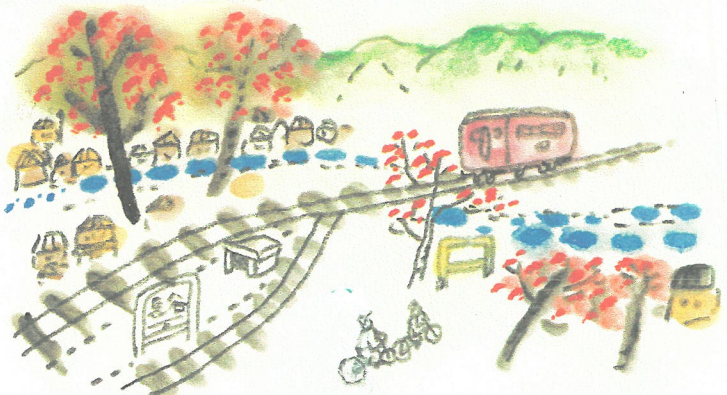
南但馬エリアでのサイクルツアーへの取り組みと一体的にしていく動きも大切で、今回のアート作品には、朝来市で地域おこし協力隊で活動されているネル・ケビンさんにデザインをお願いし、サイクリスト達が中播磨と南但馬を一体として巡ってもらえる仕組みづくりに繋げていければと思つています。

デザインが人を動かす時代をどの様に仕掛けていくのか?

そして中播磨と南但馬を誰がアートやサイクリングを通してコーディネートしていくのが楽しみです。

播但沿線活性化協議会

代表 小野康裕



# 地元の想い

高齢化、人口減少、空き家の増加などが進む今日この頃。銀の馬車道アートの出現にて、今後の若き人の往来に期待するものです。近年、この場所は、撮り鉄ファンの方々が立ち寄られるスポットになっていきました。更なる情報発信に繋がるのでは?

前嶋茂徳